

琵琶湖部会中間とりまとめのイメージ(案)

第1回 琵琶湖部会作業部会 検討結果
日時：平成14年3月9日

作業部会での議論テーマ(案)

第1回作業部会 (3/9)

作業部会の進め方

- ・ 中間とりまとめの構成
- ・ スケジュール
- ・ 中間とりまとめの方針

基本的な考え方

- ・ 琵琶湖及び流入河川の特性
- ・ 琵琶湖及び流入河川の課題
- ・ 基本的な考え方

琵琶湖部会で取り上げるべき
論点

第2回作業部会 (3/13)

各論の検討

- ・ 環境
- ・ 治水・安全
- ・ 利水・空間利用

琵琶湖部会としての中間とりまとめ案

中間とりまとめの構成(案)

淀川水系流域委員会中間とりまとめ

委員会
中間とりまとめ

琵琶湖部会
中間とりまとめ

淀川部会
中間とりまとめ

猪名川部会
中間とりまとめ

- 各部会の中間とりまとめには各部会としての理念の部分も記述する。
- 委員会とりまとめでは、3部会のとりまとめのエッセンスを集約する。
- 集約の過程で、各部会の中間とりまとめに必要であればフィードバックする。
- 各流域についての具体的提言は、各部会の中間とりまとめを参照してもらう。

経過と個別の意見集 (参考資料)

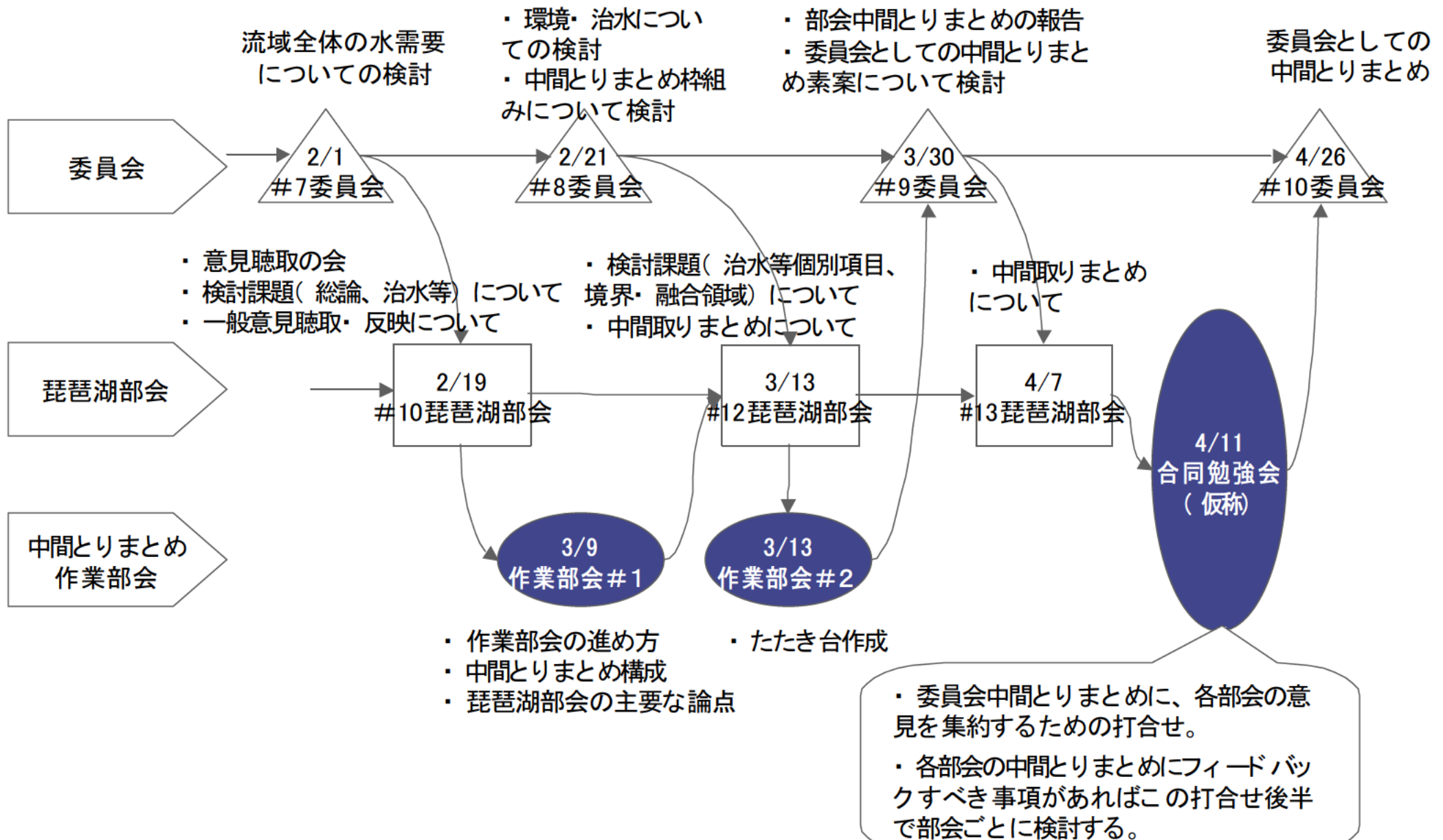
委員会・部会の活動経過

これまで委員から出された
各分野の意見集

これまで一般から寄せられた
各分野の意見集

+

琵琶湖部会作業部会のスケジュール(案)



琵琶湖部会中間とりまとめの方針(案)

◆琵琶湖部会としての中間とりまとめの方針(案)は以下のとおり。

基本方針

- ・基本方針は川那部部会長の基本方針案を土台として、作業部会で展開してゆく。
- ・部会の中間とりまとめ素案は主張のメリハリの効いたものとする。
- ・河川整備計画を立案するための提言、アドバイス、要請をまとめたもの。整備計画の原案でもなく、また、1冊のまとまった報告書でもない

目次構成

- ・他部会との構成の整合をとる方向で調整する。

個々の具体的 事業への言及

- ・中間とりまとめでは、個々の具体的事業の是非には言及しない
- ・「こういう事業はこういう方向性で進めるべきだ」という方向性/視点を記述する

多様な意見の 取り扱い

- ・部会での多様な意見を明記して残す
- ・意見については必ずしも一本化せず、両論併記、付帯意見も可能とする

流域の捉え方

- ・琵琶湖本体を流域として捉える。
- ・琵琶湖へのすべての流入河川を流域として捉える。

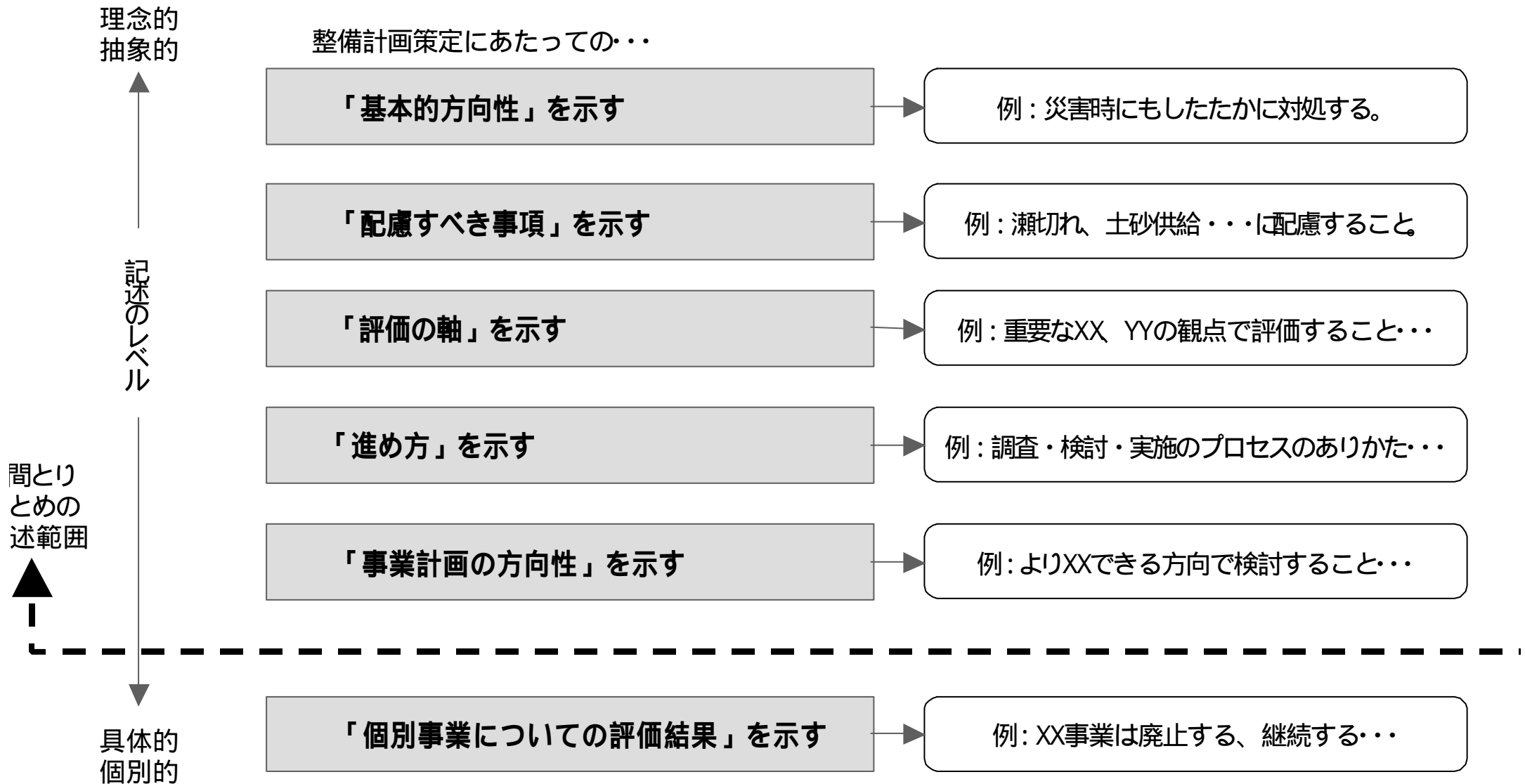
琵琶湖部会の検討対象流域(案)

直轄区間(草津川下流部、野洲川下流部、高時川中流部、瀬田川上流部)と直轄区間外をあわせて議論し、

- ①直轄区間については国交省への直接提言部分
- ②直轄区間外は、国交省から他省庁・自治体への働きかけについての提言とする。



中間とりまとめでの記述のレベル(案)



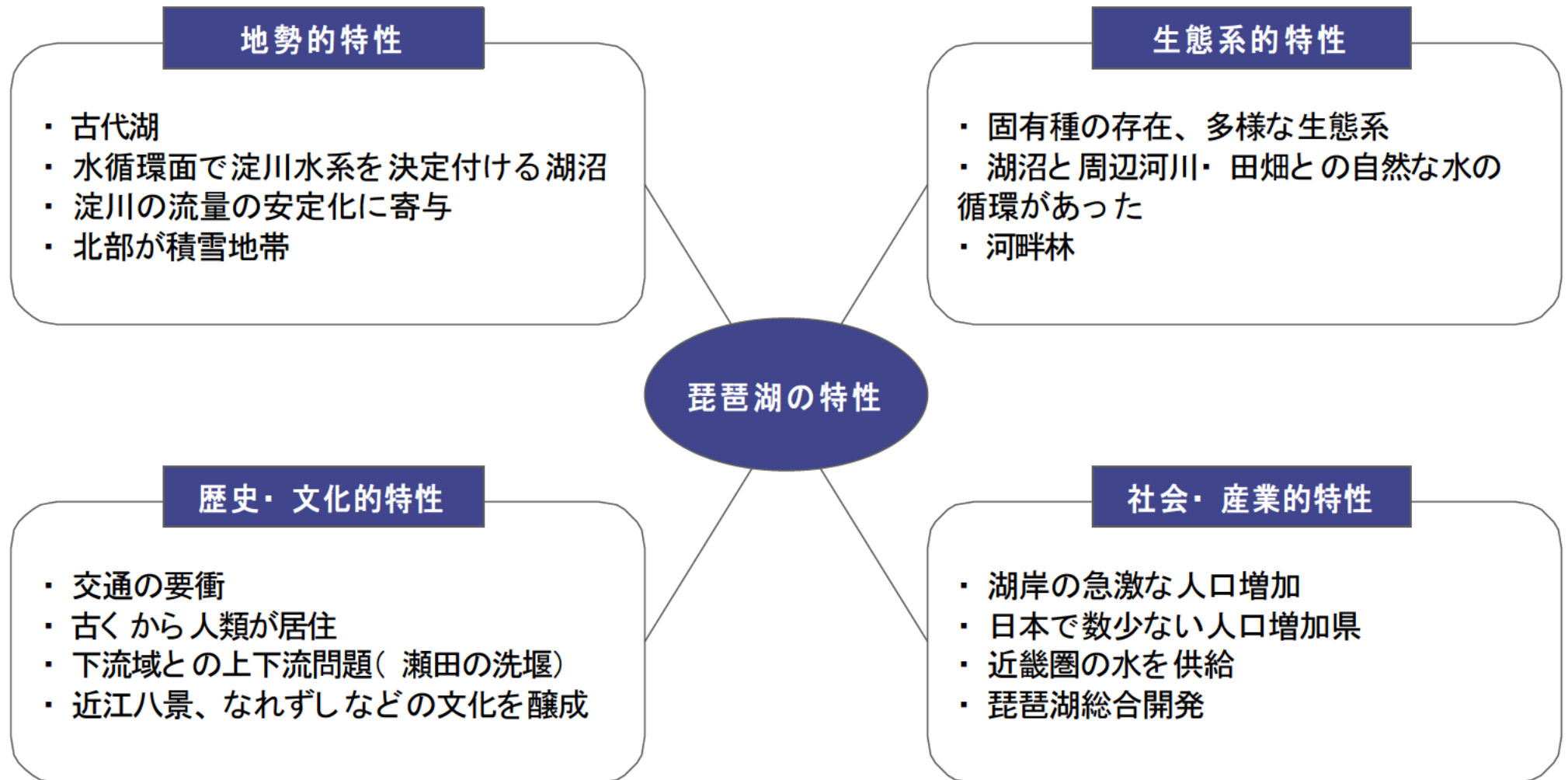
目次構成(案)

はじめに

- 1．前文（琵琶湖部会における理念・宣言）
- 2．琵琶湖及び流入河川の特性・問題点（琵琶湖とは、今何が問題か）
- 3．河川整備計画策定にあたっての基本的な考え方（問題意識と価値観の転換（パラダイムシフト））
- 4．整備の方向性
 - (1)総合的課題への対応（個別問題の総合化、琵琶湖固有の問題への対応等）
 - (2)環境
 - (2)治水・防災
 - (3)利水
 - (4)利用
- 5．推進にあたって

琵琶湖及び流入河川の特性(案)

- ◆ 琵琶湖及び流入河川の特性は何か？ どのようにとらえるべきか？



琵琶湖及び流入河川の課題・問題点(案)

◆現在、琵琶湖及び流入河川の一体何が問題なのか？

環境面(生態系)における問題

琵琶湖水質・底質の悪化
農業排水・濁水の問題
湖岸周辺部との水循環が絶たれている
外来種の増殖
内湖の減少

利用面における問題

水上バイク等の利用増による水質・騒音等への影響
湖面・水面の適正利用のルールの設定

治水面・安全面における問題

下流に対する治水
水防組織の充実・強化、地域社会での対応
防災意識・技術の伝承
流入河川の治水

社会面における問題

人口の増加、宅地開発
流入負荷の増大(面源負荷)、流域管理の必要性
琵琶湖の水位管理の問題(環境面等の考慮)
土砂供給の減少、浜欠け
湖沼・河川に関する法整備

利水面における問題

ダム開発の根拠となる水需要予測の論拠が不明確
水需要のマネジメントの必要性

計画策定等における問題

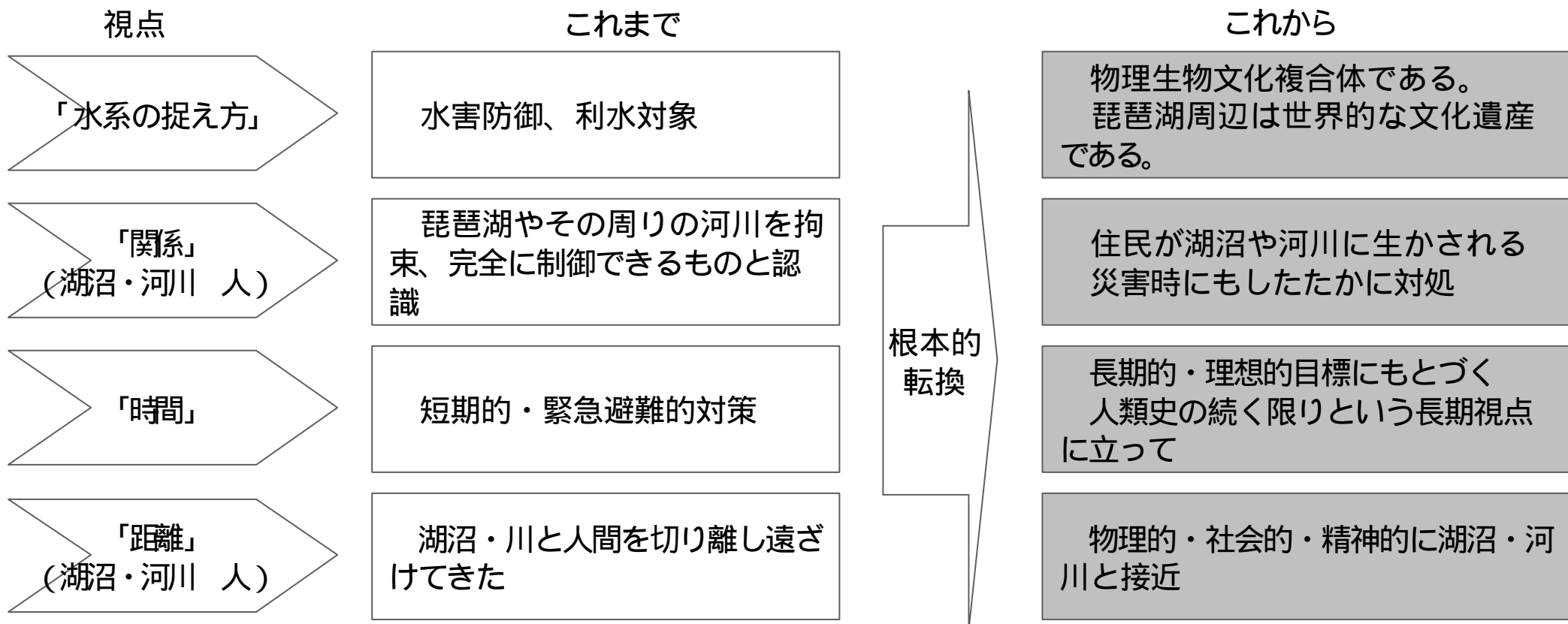
琵琶湖流入河川ごとの整備計画の策定
湖沼は川と違った管理が必要
不確実性を考慮した計画の策定(生態系だけでなく、科学的な問題、人間の問題も含めて)
住民自らも責任を負うといった視点

河川整備におけるパラダイムの転換(案)

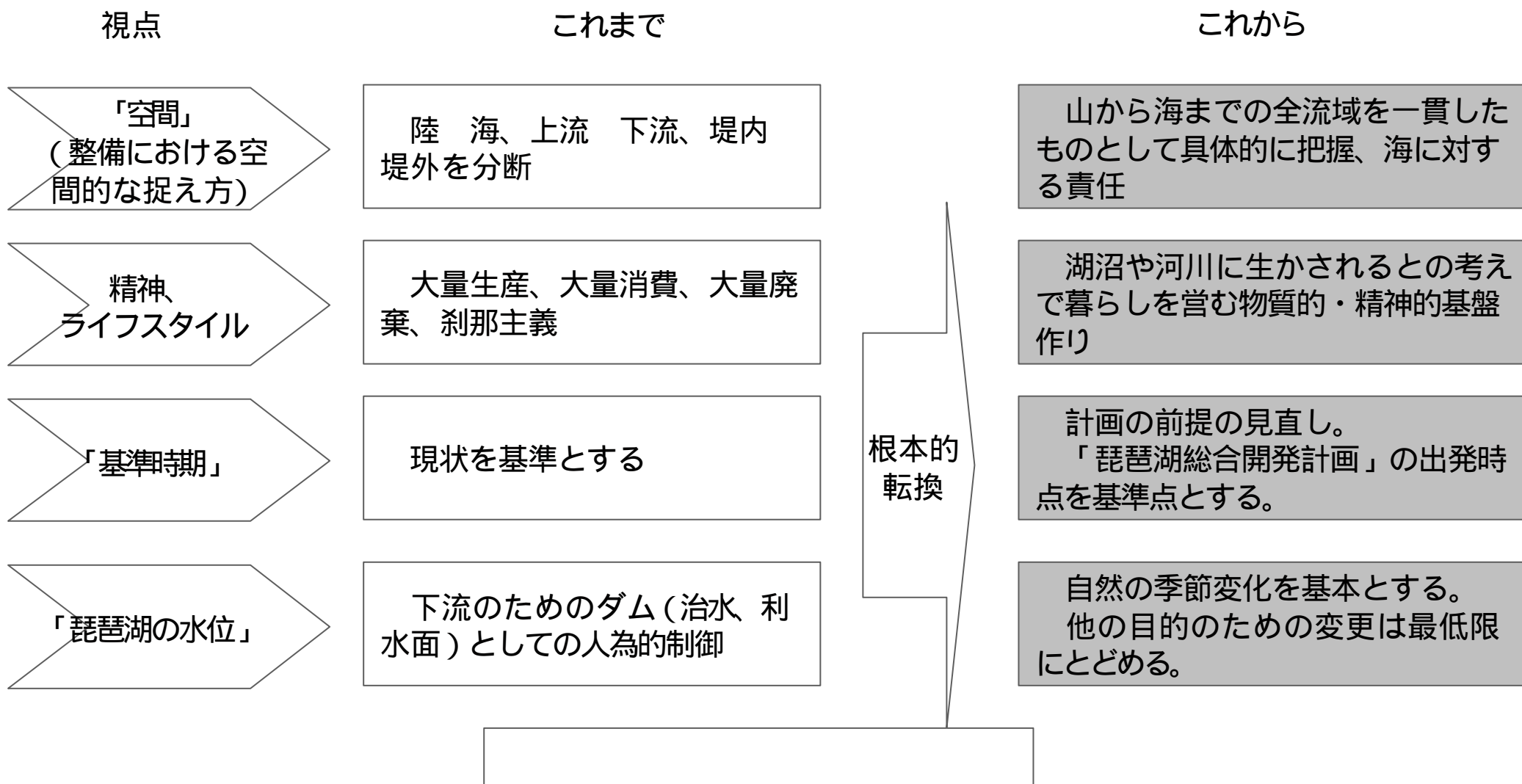
- ◆河川整備、河川との付き合い方についての考え方をどのように転換すべきか？(川那部試案をもとに作成)

基本的な考え方

「人間の短期的な利害関係から行ってきた従来の河川整備のやりかたを根本的に改め、歴史的に作られてきた<物理生物文化複合体(当然に人間を含む)>としての琵琶湖とそれをめぐる各河川を、いわゆる<生態系的アプローチ>によって総体として整備する。



河川整備におけるパラダイムの転換(案)



今後、これをベースに、各委員の意見を反映して「基本的な考え方」に構成してゆく。

琵琶湖部会での主要な論点(案)

分野 対応策	A 総合	B 環境	C 治水防災	D 利水	E 利用	F 社会
1 水位管理	自然のリズムを どこまで考慮するか 治水・利水・環境 のバランス	葦(よし)生育 湖岸侵食 産卵・漁場	下流へのダ ム機能	下流域の湯 水対策		下流との関 係
2 流入河川対 策	100年後を見越し た琵琶湖への配慮	瀬切れ 土砂供給 地下水	天井川対策 直線化対策	適正な水の 配分(農水等) 環境用水		土地利用
3 流入水量・ 水質コントロ ール(ダム等)	後世への対策の 余地として使い切ら ずに残す 治水・利水・環境 のバランス	北湖の湖底 環境 水温変化と 漁場	治水効果の 検証	科学的・客観 的な予測 データの開 示		地域におけ る意思決定 下流に対す る上流の認知
4 湖岸・水辺 対策		生態系の連 続性の確保			適正な利用	土地利用 危険度認知